

神奈川県内トラック運送業界の景況感調査 速報

(平成28年10月～12月期)

今回調査は、平成28年10～12月期実績と平成29年1～3月期見通しを平成29年1月中下旬に調査したものであり、配付した2,141社のうち555社から回答を得た結果である。

■概況

我が国経済は、28年7～9月期の実質GDP成長率(季調ベース)が、前期比0.3%増(年率1.3%増)と3四半期連続のプラス成長となった。輸出が持ち直し、個人消費が若干上向く一方で、世界経済の先行きの不透明感から、足元では一進一退の動きがみられる

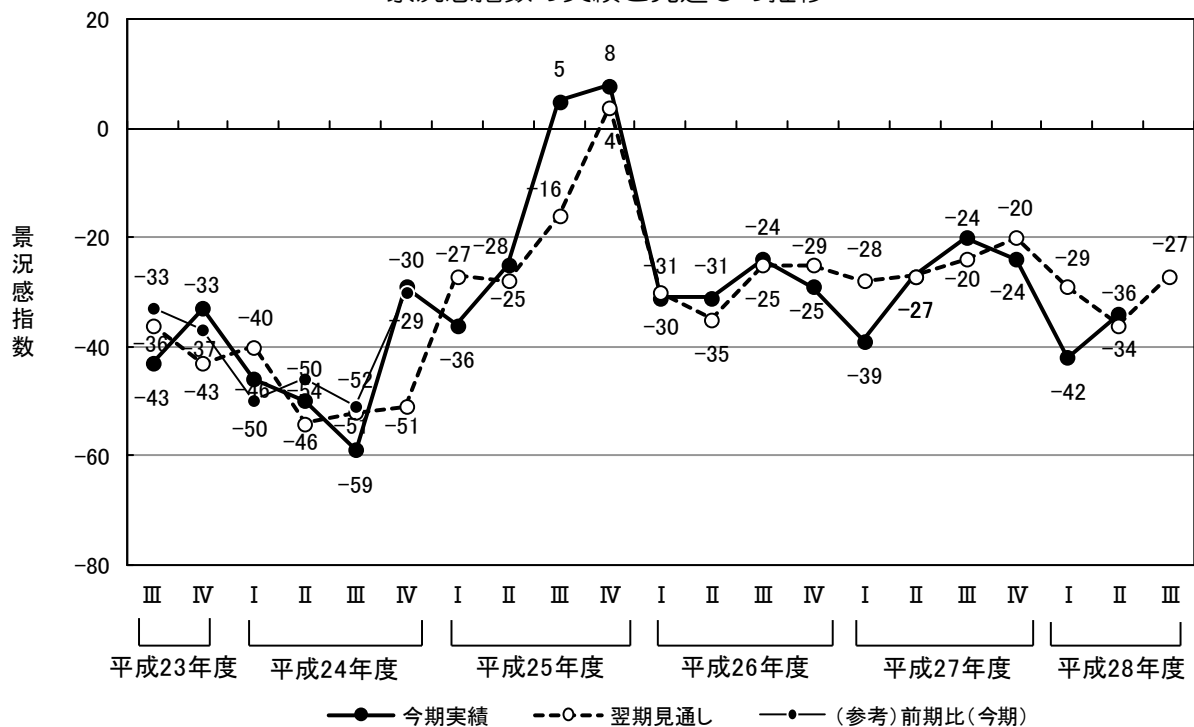
このような状況の中、平成28年10～12月期の物流を取り巻く経営環境は、前期に比べマイナス幅は小さいものの輸送数量や営業収入は減少基調にあり、引き続き厳しい状況がうかがえる。トラック運送業界の景況感も、やや好転はみられるもののマイナス基調にある。

輸送数量指数は、前期に比べ回復基調にあり、全体では今期実績△2、大規模事業者+10、中規模事業者+2となっているが、全体の翌期見通しは△14とマイナス基調に転じている。

品別別に今期実績の輸送数量指数をみると、消費関連貨物は+1、生産関連貨物は△16、建設関連貨物は△6、輸出入関連貨物は△15とそれぞれ前期に比べ改善がみられるが、翌期見通しでは、再びマイナス基調の見通しとなっている。

このような状況のもと、トラック運送業界の景況感は、前期指数△34よりやや好転したが、△9と未だマイナス基調である。翌期見通しはまた△16と減少幅が大きくなるとの見通しとなっている。翌期の見通しを業種別にみると、全ての業種が減少となっており、特に生コン、重量鉄鋼の減少幅が大きく、厳しい経営環境が続く見通しとなっている。

景況感指数の実績と見通しの推移



注1) 太い実線は今期実績の景況感指数(前年同期比)、点線は今期時点の翌期見通しの景況感指数(前年同期比)。細い実線は参考掲示の今期実績の景況感指数(前期比)

■景況感調査結果一覧

		前 期	今 期	翌 期	
		28年7~9月	28年10~12月	29年1~3月	
景況感（全体）		△34 ↘	△9 →	△16 →	
輸送数量（全体）		△22 ↘	△2 →	△14 →	
規模別	大規模事業者	+16 →	+10 →	△19 →	
	中規模事業者	△24 ↘	+2 →	△9 →	
	小規模事業者	△24 ↘	△6 →	△16 →	
	品類別	消費関連貨物	△14 →	+1 →	△17 →
		生産関連貨物	△35 ↘	△16 →	△22 ↘
		建設関連貨物	△27 ↘	△6 →	△9 →
		輸出入関連貨物	△30 ↘	△15 →	△22 ↘
経営状況	営業収入（売上高）	△28 ↘	△7 →	△19 →	
	営業利益	△35 ↘	△14 →	△23 ↘	
	運賃・料金の水準	△11 →	△5 →	△8 →	
労働	雇用状況（人手の過不足） ^{注3}	+59 ↗	+61 ↑	+58 ↗	

【参考】業種別景況感

景況感（全体）		△34 ↘	△9 →	△16 →
業種別	一般	△31 ↘	△8 →	△18 →
	特積み	△50 ↘	△17 →	△9 →
	自動車部品	△29 ↘	△14 →	△7 →
	食品	△21 ↘	△6 →	△15 →
	タンク、高圧ガス	△59 ↘	△50 ↘	△18 →
	引越	△22 ↘	△29 ↘	△6 →
	重量鉄鋼	△39 ↘	△31 ↘	△25 ↘
	生コン	△60 ↘	△20 →	△33 ↘
	海上コンテナ	△51 ↘	+9 →	△4 →

注2) 名設問選択肢に次のような5段階のポイントを付与したうえで、各選択肢のポイントを集計し、1 事業者当たりの平均値を業界の景況感を判断する指数としている。したがって、この指数値が0のときに業界の景況感等は前年度並みの状況を示し、プラス値が大きいほど業界の景気等は上向いていること、逆にマイナス値が大きいほど悪化していることを示すものとなる。

なお、この値はあくまで指数でありパーセンテージではない。例えば前期の実績に対し、更に何%上昇あるいは悪化という見方ではないことに留意が必要である。

注3) 雇用状況（人手の過不足）は、今回調査から選択肢を見直したため、前回との連続性はない。

注4) 判断指数と矢印の対応

判断指数	~ △100 ~ △60 ~ △20 ~ +20 ~ +60 ~ +100 ~
矢 印	↓ ↓ ↘ → ↗ ↑ ↑